

2017年(平成29年) 3月31日(金曜日)

毎週(金) 14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

## ■ 概況

3/16~22のNYMEX・WTIは、米国の供給過剰感の高まりにより、50ドルを割り込み、47.34~48.78ドルの範囲で軟調に推移した。

3月23日は、前日の過去最高水準に達した米国原油在庫の発表による供給過剰感の高まりによって続落し、5月限の終値は前日比0.34ドル安の47.70ドルだった。

週末24日は、ペーカーヒューズ社発表の米国内石油掘削リグ稼働数が652基(前週比21基増)と10週連続の増加、2015年9月以来の高水準となったものの、週末の主要産油国による閣僚級の監視委員会を控えた持ち高調整やドル安・ユーロ高に伴う割安感による買いで、5営業日振りに反発した。5月限の終値は前日比0.27ドル高の47.97ドルだった。

週明け27日は、26日のクウェートでの産油国監視委員会、ロシアの時期尚早との主張により、本年下期以降の協調減産延長の検討が先送りされたこと、オバマケア廃止法採決断念によるトランプ政権への失望感により、金融市場でリスク回避の動きが広がったことから、反落した。5月限の終値は前日比0.24ドル安の47.73ドルだった。

28日は、武装集団の攻撃によるリビア西部油田2か所の封鎖の報道、イランのザンガネ石油相のOPEC減産延長見通しの発言により、反発した。5月限の終値は前日比0.64ドル高の48.37ドルとなった。

29日は、米国エネルギー情報局(EIA)発表の米国原油在庫は微増したが、ガソリン・中間留分在庫が予想の倍近く減少したため、大幅に反発し、3週間振りの高値を記録した。5月限の終値は1.14ドル高の49.51ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(5月渡し)は、前週49.20~50.50ドルと、50ドルを挟んで軟調に推移した。3月23日は49.20ドル、24日は48.90ドル、27日は48.70ドル、28日は49.30ドル、29日は49.70ドルで推移した。

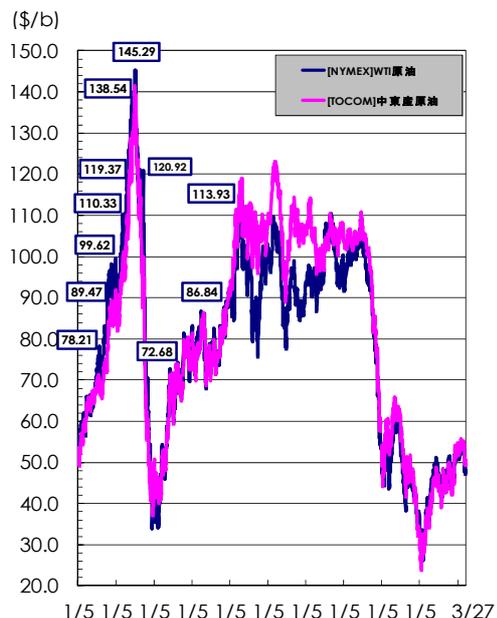
為替は、前週111.72~113.48円の範囲で円高方向に推移した。3月23日は111.48円、24日は111.35円、27日は110.44円、28日は110.77円、29日は111.05円で推移した。

財務省が30日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、3月上旬の原油輸入平均CIF価格は、39,907円/klとなり、前旬を505円上回った。ドル建てでは55.91ドルで前旬比0.49ドル高。為替レートは1ドル/113.47円。

主要元売会社の4月第1週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、据え置きから2.5円の値下げに分れた。原油価格は値下がり、為替レートも円高で、原油調達コストは値下がりした。

そのような中で、3月27日時点の小売価格は、ガソリンが0.1円値上がりの133.9円、軽油が0.1円値上がりの112.3円、灯油は横ばいの78.1円だった。ガソリンは5週連続の値上がり、軽油も5週連続の値上がり、灯油は4週振りの横ばいだった。この週(3月第4週)の原油コストはわずかに値下がりし、元売の卸価格は全社全油種とも据え置きだった。

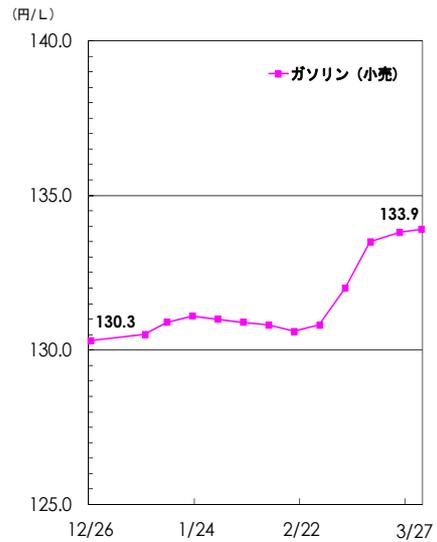
原油		今週	前週比	前年比	
需給	原油処理量 (千kl)	3/19 ~ 3/25	3,637	▼ -46	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	86.2	▼ -1.1	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	3/25	12,414	▼ -454	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	3/27	49.20	▼ -1.52	▲ 11.2
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	3/27	47.73	▼ -0.49	▲ 8.3
	原油CIF単価 (\$/bbl)	3月上旬	55.91	▲ 0.49	▲ 23.74
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	39,907	▲ 505	▲ 17,015
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	113.47	▼ -0.44	▼ -0.33
	外国為替TTSレート (¥/\$)	3/27	111.44	▲ 1.96	▲ 3.00



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/19 ~ 3/25	1,017 ▼ -5	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	962 ▲ 21	▲ -	
	輸出	"	69 ▲ 30	▼ -	
	在庫	3/25	1,721 ▼ -14	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/21 ~ 3/27	53.3 ▼ -0.2	▲ 17.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/21 ~ 3/27	49.4 ▼ -1.6	▲ 8.9
		(TOCOM/中部)	3/27	49.7 ▼ -1.4	▲ 10.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/27	133.9 ▲ 0.1	▲ 20.6	

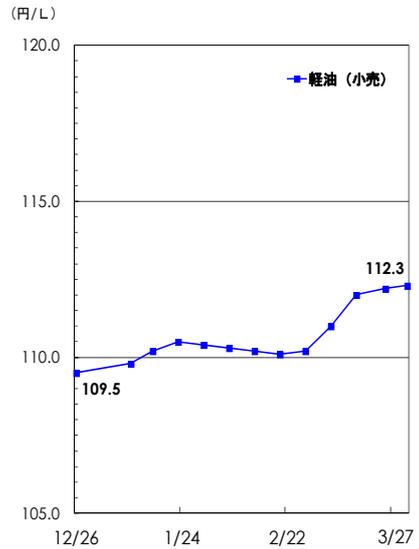
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

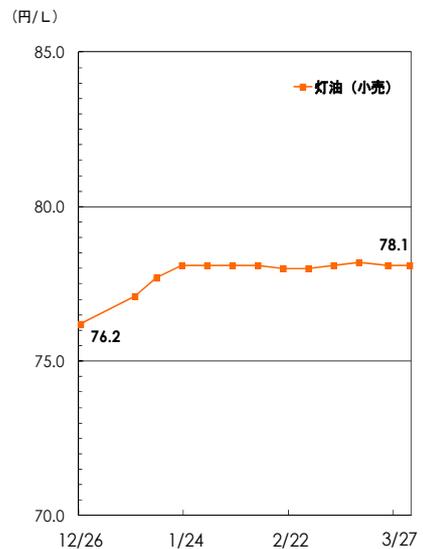
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/19 ~ 3/25	698 ▼ -63	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	603 ▼ -58	▼ -	
	輸出	"	212 ▲ 148	▲ -	
	在庫	3/25	1,479 ▼ -118	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/21 ~ 3/27	50.7 ▼ -0.6	▲ 17.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/21 ~ 3/27	46.0 → 0.0	▲ 9.8
		(TOCOM/中部)	3/27	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/27	112.3 ▲ 0.1	▲ 14.8	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/19 ~ 3/25	377 ▲ 52	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	465 ▲ 119	▲ -	
	輸出	"	0 → 0	→ -	
	在庫	3/25	1,125 ▼ -88	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/21 ~ 3/27	49.7 ▲ 0.4	▲ 15.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/21 ~ 3/27	44.6 ▼ -1.8	▲ 9.1
		(TOCOM/中部)	3/27	44.7 ▼ -2.3	▲ 8.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/27	78.1 → 0.0	▲ 17.1	



■ 関連情報

1 海外/原油

3月29日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の週報で、米国内原油在庫が前週比増加(90万バレル増)したものの、市場予想(140万バレル増)を下回ったこと、ガソリン在庫が370万バレル減、中間留分在庫が250万バレル減と、市場予想(ガソリン190万バレル減、中間留分120万バレル減)の倍近い減少を示したことから、大幅に反発した。また、昨日からのリビアの供給障害、OPEC減産延長見通しの報道等も価格上昇を後押しした。5月限の終値は前日比1.14ドル高の49.51ドル、6月限の終値は前日比1.10ドル高の50.00ドルだった。

EIAによると、3月27日時点のガソリンの小売価格は前週比0.6セント値下がりの1ガロン2.315ドル(68.1円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比0.7セント値下がりの2.532ドル(74.5円/ℓ)。ガソリン、ディーゼル共に3週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、3月19日～25日に休止したトッパー能力は34.9万バレル/日で、前週に対して8.2万バレル/日の増加(全処理能力は379.0万バレル/日)。

原油処理量は363.7万klと、前週に比べ4.6万kl減少。前年に対しては25.0万klの減少。トッパー稼働率は86.2%と前週に対して1.1ポイントの減少、前年に対しては3.0ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて灯油、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/0.5%減、ジェット/5.1%減、灯油/16.2%増、軽油/8.3%減、A重油/10.6%減、C重油/20.6%増。今週のC重油の輸入は3.7万kl(前週比0.4万kl増)。軽油の輸出は21.2万kl(前週比14.8万kl増)。

出荷(販売量)は、前週比では軽油のみが減少し、その他の油種で増加した。前年比では軽油、C重油が減少し、その他の油種で増加した。小売価格が5週連続で値上がりとなる中、ガソリンの出荷は96.2万 kl(対前週2.3%増)と2週連続で前週比で増加、2週振りに前年比で増加となり、8週連続で100万klを下回った。ジェット15.5万 kl(対前週26.1%増)、灯油46.5万 kl(対前週34.5%増)、軽油60.3 万kl(対前週8.8%減)、A重油25.7万 kl(対前週12.2%増)、C重油31.5万 kl(対前週26.0%増)。

(単位:千KL)

	今週 (3/19 ~ 3/25)	前週 (3/12 ~ 3/18)	前週比	
ガソリン	962	941	▲ 21	(2%)
ジェット燃料	155	123	▲ 32	(26%)
灯油	465	346	▲ 119	(34%)
軽油	603	661	▼ -58	(-9%)
A重油	257	229	▲ 28	(12%)
C重油	315	250	▲ 65	(26%)
合計	2,757	2,550	▲ 207	(8%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

3月25日時点の在庫は、C重油のみが積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては、灯油、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは172.1万kl、前週差1.4万kl減。前年に対しては3.3万kl多い。

灯油は112.5万kl、前週差8.8万kl減。前年に対しては0.2万kl少ない。

軽油は147.9万kl、前週差11.8万kl減。前年に対しては0.1万kl多い。

A重油は76.3万kl、前週差1.6万kl減。前年に対しては0.3万kl多い。

C重油は199.0万kl、前週差0.7万kl増。前年に対しては2.0万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (3/25)	前週 (3/18)	前週比	
ガソリン	1,721	1,735	▼ -14	(-1%)
ジェット燃料	932	1,009	▼ -77	(-8%)
灯油	1,125	1,213	▼ -88	(-7%)
軽油	1,479	1,597	▼ -118	(-7%)
A重油	763	779	▼ -16	(-2%)
C重油	1,990	1,983	▲ 7	(0%)
合計	8,010	8,316	▼ -306	(-3.7%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

3月21日から3月27日までの原油コストは、原油価格は値下がり、為替レートは円高で、原油コストは値下がりで見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン107円台、軽油50円台、灯油49～50円台でほとんど横ばいであった。海上スポット価格は、ガソリン103～106円台、軽油50～51円台、灯油46～49円台、先物価格はガソリン102～104円台、軽油46円台、灯油44～46円台で、軽油を除きこちらも値下がりである。元売の卸価格は横ばいから2.5円の値下がりだった。

東燃ゼネラルは3月30日、4月1日以降の外販スポット価格を、灯油のみを1.0円値上げし、他の油種は据え置く旨通知した。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストは値下がり、製品スポット市況も原油価格の軟調から、軟調に推移した。週間のガソリン販売量は、8週続けて100万klを下まわった。

4月第1週(3月30日～4月5日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(3月21日～3月27日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.2円、軽油は0.6円の値下がり、灯油は0.4円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが1.7円、灯油は1.4円、軽油は0.3円の値下がりだった。先物価格は、ガソリンが1.6円、灯油が1.8円の値下がり、軽油が横ばいだった。原油価格は値下がり、為替は円高で、原油コストは値下がりとなった。

3月第4週の大手元売の卸価格は、横ばいから2.5円の値下がりだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
[陸上ローリー4地区平均]	今週 (3/21～3/27)	前週 (3/14～3/17)	前週比	
レギュラー	53.3	53.5	▼	-0.2
灯油	49.7	49.3	▲	0.4
軽油	50.7	51.3	▼	-0.6

(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
[期近物/終値] [平均]	今週 (3/21～3/27)	前週 (3/14～3/17)	前週比	
レギュラー	49.4	51.0	▼	-1.6
灯油	44.6	46.4	▼	-1.8
軽油	46.0	46.0	→	0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (3/21～3/27実績値)		(単位: 円/ℓ)	
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.2	▼ -1.6	▼ -0.9
灯油	▲ 0.4	▼ -1.8	▼ -0.7
軽油	▼ -0.6	→ 0.0	▼ -0.3
A重油	→ 0.0		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

3月27日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円値上がりの133.9円、軽油が前週比0.1円値上がりの112.3円、灯油は前週比横ばいの78.1円だった。ガソリン、軽油は5週連続の値上がり、灯油は4週振りの横ばいだった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは27都県、横ばいは7府県、値下がり13道府県であった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、埼玉県の128.9円(前週比0.4円高)、次が千葉県の130.7円(同横ばい)だった。最高値は鹿児島県の141.5円(同0.1円高)だった。都道府県別で、最も値上がりしたのは前週比0.7円高の福島県(134.0円)と神奈

川県(131.3円)、最も値下がりした県は同0.5円安の沖縄県(139.5円)、横ばいが千葉県・茨城県・石川県・奈良県・京都府・鳥取県・佐賀県だった。

原油コストは値下がりしたが、小売価格への転嫁が進み、5週連続でガソリン小売価格は値上がりした。原油価格は値下がり、為替レートも円高となり、原油コストは値下がりし、今週の元売会社の卸価格は、横ばいから2.5円の値下げだった。次週(4月3日)のガソリンと灯油の小売価格は、一部元売りの卸値の値下げにより、小幅な値下がりが見込まれる。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/ℓ)		
	今週 (3/27)	前週 (3/21)	前週比	直近高値
レギュラー	133.9	133.8	▲ 0.1	08/8/4 185.1
灯油	78.1	78.1	→ 0.0	08/8/11 132.1
軽油	112.3	112.2	▲ 0.1	08/8/4 167.4

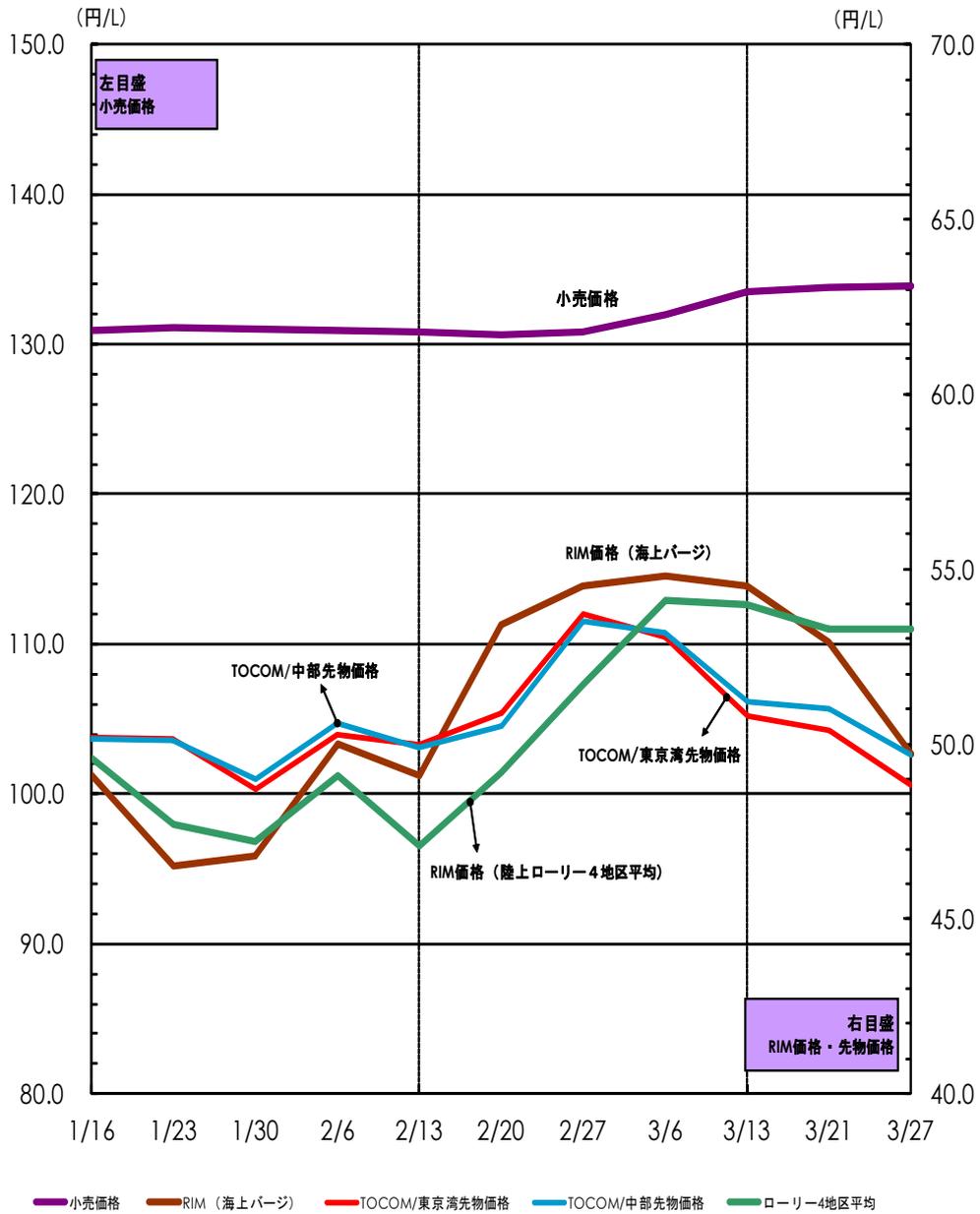
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2017/1/16 ~ 2017/3/27)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2017第1号)の公表は、4/7(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年9月末現在)は、12月21日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。  
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。  
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。  
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。  
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」  
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。  
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。